

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関 宮崎大学教職大学院 連携機関名 宮崎県教育委員会教職員課、宮崎県教育研修センター
	セミナー名：【NITS カフェ in 宮崎大学教職大学院】 コロナ予防対策下での「教員の働き方改革」 ～両方進める方途を探る～
	開催日時：令和3年2月8日 13時30分～16時 開催場所：宮崎大学（宮崎県宮崎市学園木花台西1-1） 参加人数と参加者の属性：宮崎県教育委員会教職員課2名、宮崎県教育研修センター1名、宮崎大学教職大学院教員10名、宮崎大学教職大学院生22名、教育学部生22名、計57名。

テーマ： コロナ予防対策下での「教員の働き方改革」～両方進める方途を探る～

テーマ設定の背景として、今年度の最重要課題であるコロナ感染症対策と同様に、重要課題である「教員の働き方改革」を同時に進めるために、実践をすすめている教育行政担当からの施策説明、さらには、パネルディスカッションにおいて関係者による新たな取組への協議を行うことで参加者全員での情報共有を図るため設定した。

内容：開催方法については、コロナ感染症の第三波が到来する危険性が高いため、遠隔開催とした。参加者には、インスタントコーヒーを事前に郵送した。進行は、まずパネルディスカッションとして、宮崎県教育委員会教職員課から現在の施策を説明し、宮崎大学から企画者湯田が企画を説明した。その他に、現職院生から学校での取組、ストレート院生から実習での経験をそれぞれ説明した。主として、「教育の質の向上」と「児童生徒の教育の充実」の両立、技術革新の活用的重要性、教員以外の人達との「関係性」の見直しが提言された。その後、これから実践する具体的な案についてグループディスカッション（4グループ）で討論した。仮想学校を設定して、そこでの実践案を検討した。実践案としては、中学校では有給8割消化、ICTでの効率化、部活動に外部人材の導入などがあげられた。小学校では登下校管理を地域住民に委任、昼休み短縮、ICTによる業務効率化、アプリによる家庭との連絡などがあげられた。ソーシャルディスタンスと三密の徹底を両立させるにはICT技術によるハイブリッド授業などがあげられた。

成果：アンケート結果（22名分）では、「グループディスカッションに参加して「コロナ対策下での働き方改革」についての理解が「大変深まった」が9名、「深まった」が12名、「どちらとも言えない」が1名であった。自由記述欄ではストレート院生から「教員の働き方改革」は急がれるべきと以前から考えていたので、今回宮崎県の実際の取り組みと経過や様々な考え・案を聞くことができたことは、今後現場で十分に活かすことのできるものだと感じている。斬新な意見や考えを提案させてもらったが、現職院生の反応は良好だと感じた」があげられた。同様に現職院生からは、「教職員の仕事の多さを減らし、同時に人材育成を行い、人としての幸せを追求するという、かなり大きなことに向かっているが、最近の現場では、どんどんやってみよう、それからうまくいかなかったこと、課題として整理していけばよいと、実践をまず行うという、今までとは違う流れになっていることを肌で感じている。学校改革を進めていくことの必要性を感じ、すぐにまずやってみようとする現場の空気が今後、新人教育にも生かすことができればよいと感じた」であるように、今後の実践につなげようとする意思がみられた。

アイデアや工夫したこと： コロナ感染症予防対策のためWEBでの同時配信として実施した。

事前に文部科学省の手引き「学校の新しい生活様式」をデジタル配布して読み込むことを指示した。内容について、魅力ある職業としての教職に向けた「教員の働き方改革」という流れにした。グループディスカッションでは仮想の学校経営案を作業課題とした。

<写真・図など>

z o o mでの実施なので、写真無し。